大学出版

大学と社会を結ぶ　知のネットワーク

NO.89
2012.1
＊冬

一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

＊特集
大学出版の新たな展開——電子化と国際化
日本の大学出版部は電子出版にどう取り組むべきか
アンケート結果から考える　浦山毅　1
韓国大学出版部の電子書籍事業の展望　李元　8
国境を越える学術出版
英文共同出版の一〇年　斎藤至　15
世界を舞台に活躍するために
英語で学術成果を発信する　湯浅誠　20
＊連載
初版本、ナンセンスなフェティシズム
瀬川康男絵『さいのかわら地蔵和讃』酒井道夫　表2
大学出版部ニュース　25

JAPA
UNIVE
PRE
＊
NO
201
WIN

初版本、ナンセンスなフェティシズム

瀬川康男 絵『さいのかわら地蔵和讃』

酒井道夫（二代目酒井九ポ堂）

鬼の場面では色彩豊かに動きのある過剰な描写、一転、地蔵の登場後は金と墨を基調とした簡潔で静かな画面構成。本文も瀬川による書き文字。瀬川独特の装飾的な細かい描線や色彩が、石版画ならではの濃淡で見事に表されている

若造だった私にとって、本書（版元・季刊『銀花』、一九七三）が身の程知らずな稀覯本であることは充分承知の上で、刊行の予告を見るやすかさず購入を申し込み、限定一五〇部中九八番の本册をゲットした。かれこれ四〇年も昔のことだ。こんな途方もないやりかたで、いわゆる「お宝」を入手したのは後にも先にもこれ一回こっきりである。

若年から、建築や室内デザイン関連の業界誌編集者を渡り歩いてきて、やっと月給が大台を超え（大台なんて言ったって知れたものだが）ホッと一息ついたところへ、美術短大教員の口が転がり込んできて、これに飛びついた。ところが、給料が二割減に後戻りする憂き目に遭い、更に第一子を一歳半で失ってしまった。

何の因果でこんな目に遭わねばならぬのか、と悲嘆にくれる運命に打ちひしがれていたところに本書の刊行を知り、後先も考えずに欲しくなった。大枚一万七〇〇〇円也。当時、どうやってこの代金を捻出したのだろうか？

奥付には「刷・山田さびん、紙・深山紙、染・山内武志、装潢・池上幸雄」の記載があるものの、肝心の製本師の名があげられていない。帙入りの和本仕立てだが、外装に綴糸を見せない仕立てで十五丁を綴じたお洒落な装丁。

ページを開いた際に、少々ノドが詰まり気味なのが残念だが、瀬川ワールド全開の石版画は、期待通りに見事な仕上がり。瀬川さんにも幼子との別れがあったのではないか、と思わせる程、いたいけな赤子の形姿に吸い寄せられる。さまざまなバリエーションで流布する「さいのかわら地蔵和讃」のなかでも、ことさらやるせない気分を誘うこの一編の選択がしっかりツボにはまっていて、紐解く度に「うっ」と込み上げてくるものがある。

和讃は不思議な世界だ。

■特集・大学出版の新たな展開——電子化と国際化

日本の大学出版部は電子出版にどう取り組むべきか——アンケート結果から考える

浦山　毅（東京電機大学出版局）

二〇一一年八月一七～一九日、韓国の扶余にて第一四回日韓中三カ国セミナーが行なわれた（中国は不参加）。主題は「デジタル出版の現況と大学出版部の対応戦略」で、日本と韓国から一題ずつ報告した。本稿および次稿でその概要を述べて、電子出版への取り組みの道標としたい。

電子出版の定義

電子出版の定義は揺れている。一九八〇年代半ば、編集工程のコンピュータ化を電子出版と呼んだのを皮切りに、これまで、パッケージ（FDやCD）による出版、オンライン書店・電子書店、オンデマンド印刷・オンデマンド出版、電子辞書、ケータイ小説、PDFデータ閲覧、iPad/iPhoneアプリなどを次々と電子出版と呼んできた。

電子出版という言葉は、いわばその時代の「最先端のイベント」に与えられてきており、今後も変わっていくことが予想される。あえて現時点で電子出版を定義するとすれば、「コンテンツを電子的な形で出版していくこと」になるであろう。

電子出版についてのアンケート

大学出版部協会国際部会では、二〇一一年二月にアンケートを実施し、二六出版部（回答率八一％）から回答を得た。このアンケートでは、電子出版とは、独自のコンテンツの提供・販売だけに限らず、他業者へのテキストデータまたはPDFデータの提供、iPad/iPhoneアプリなどを含むものとしたが、まだ極少部数の重版のためのサービスと考えられているオンデマンド印刷は含まないこととした。集計結果を要約すると、以下のようになる。

（1）電子出版の実績がある出版部は一二社（総回答比四六％）で、総タイトル数は六九七。東京電機大学出版局の

五二三タイトルと玉川大学出版部の一一八タイトルが突出して多く、両出版部で総タイトルの九二％を占める。大学出版部における電子出版事業はまだ実験的段階といえるが、今後急速に拡大することも考えられる。

（2）電子出版の形態は、日本の最も有力な電子図書館サービスである「紀伊國屋書店ネットライブラリー」に既刊書籍のＰＤＦデータを提供するものが多数で（四社、六七一タイトル）、次いで各所属大学が運営する機関リポジトリへのデータ提供（三社、一二タイトル）、科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルサービス「J-Stage」へのデータ提供（二社、六タイトル）、iPad/iPhoneアプリ（二社、四タイトル）と続く。これまでの「電子ブック」や「オーディオブック」までを含めると長い実験の軌跡はあるが、現時点でとくに大きな潮流にはなっていない。

（3）各出版部において電子出版の諸事務を担当する部署は、「編集部」「製作部」「営業部」「大学の広報部」などまちまちであり、いずれの出版部も専門の部局を設置しているところはなかった。

（4）電子出版に対する今後の取り組みについては、母体大学や著者の要望もあることから、現在は実績がない出版部においても調査や準備を進めるという回答が多かった。電子出版の問題点については、回答が多岐にわたった（論点は最後にまとめる）。規模の小さい出版部がこうした問題に対処するにあたって、①大学出版部協会としてこれらの問題を継続して研究すべきである、②将来、大学出版部協会による電子書籍オンラインストアを発足させてはどうかなど、協会として連携する意味の大きさを指摘するものもあった。

米国と中国の取り組み

米国では二〇〇九年時点で、八八％の大学出版部が電子書籍を刊行しているという。電子出版を事業の中心に据える出版部がある一方で、早くも活動を停止したところがある。準公的な財政基盤が整っていたり出版物の権利を出版部が有していたりする優位性は日米で大きく異なるが、図書館にＰＤＦデータを提供している点や、技術面・採算面での困難を指摘する声が多い点は日米で共通している。米国では電子出版も含め持続可能な学術出版のモデルを大学とともに模索する動きが本格的に始まっている。

中国では、いくつかの大手大学が有力ＩＴ企業と合弁会社をつくったり電子出版部門を分社化したりして、積極的な事業展開を図っている。中国政府も二〇一一年に電子出版事業者の届出のための数字印刷管理弁法を定めた。二〇〇九年には電子出版の総刊行額が、初めて紙の出版のそれを抜いた。しかし多くの出版部では技術面・採算面での困難さと、母体大学の協力や母体出版社の財政的支援の必要性を訴えており、日米の構造的問題と共通している。

東京電機大学出版局の取り組み

東京電機大学出版局では、ネットライブラリーを通じて五二三タイトルの電子書籍を公共図書館に向けて刊行している。紙の本を基にしたＰＤＦファイルを閲覧させる形態で、流通しているすべての本の電子化を計画している。これまで三期に分けて電子化を進めてきた。

第１期は試験的な意味もあって、やや古い講座やシリーズの本を中心に八三タイトルを選んだ。二〇〇七年七月に紙面のきれいな本を取りそろえ、本の版数と刷数、本のＩＳＢＮ、本の定価と原価、売上げ数などを調べて、電子の本の価格（定価ではない）とｅＩＳＢＮを決めた。価格は最初、紙の印税を踏襲して紙の本の定価と同額に設定したが、のちに正味と印税の比率をほぼ同じにそろえるために電子の本の価格を紙の本の定価の一・五倍に変更した。

その作業と並行して、本の奥付や出版契約書を参考に著作権者リストを作成し、対象となる全著作権者から書籍の電子化に関する許諾をとった。本はほとんどが二〇〇一年三月以前の刊行で、出版契約書に電子化に関する定めがなかったためである。案内状は延べ二一〇人に送った。連絡先不明で再発送・再々発送するケースもあり、最後の著作権者から回答が届くまでに約二カ月半を要した。

ＰＤＦファイルは、電子データがなかったため紙の本をスキャンして製作した。製作費用は一タイトルあたり六〇七五〇円（＝一頁あたり二五〇円×平均二四三頁）、一方、一ライセンス売れたときの収入は一四二五円、したがって採算部数は四三ライセンスであった（価格値上げにより収入は二一三七円となり、採算部数は二九ライセンスになった）。ＰＤＦ化費用を回収するのに二四カ月を要した。

第２期は二〇〇九年一二月の発売をめざして、一四七タイトルのＰＤＦ化を開始した。製作スケジュールは第１期とほぼ同じ経過をたどったが、第１期と異なっていたのはＰＤＦ化に際して組版データを使用したことである。東京電機大学出版局では、本が完成したときに印刷会社から組

「実在」の形而上学
斎藤慶典
幾多の哲学者をめぐって考察を深めてきた著者の到達点を示し，来たるべき新たな哲学の姿を予告する．四六判・定価3465円

文化政治としての哲学
リチャード・ローティ
冨田恭彦，戸田剛文 訳
自説を再論し，ヴィトゲンシュタインや現代の分析哲学を自らの構図に位置づけ論じる．著者最後の論集．四六判・定価3570円

大山郁夫と日本デモクラシーの系譜
―国家学から社会の政治学へ―
堀 真清
平和と民主の獲得のために粉骨砕身した大山郁夫の評伝を通して日本デモクラシーの道程を描く．
A5判・定価6825円

戦前期日本の金融システム
寺西重郎
近代日本における金融制度の進化過程を動学的・政治経済学的考察から解明する画期的研究の成果．
A5判・定価21,000円

教育改革の社会学
―犬山市の挑戦を検証する―
苅谷剛彦・堀 健志・内田 良 編著
「教育のまち」犬山市の改革を，あらゆる角度から検証することで全国の教育課題が見えてくる，意欲的な論集．
A5判・定価3570円

岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
[定価は消費税5%込み]
http://www.iwanami.co.jp/

版データのＰＤＦファイルを納入させている。それを使用したため、制作費用は一タイトルあたり四七〇〇〇円（一頁あたり一九一円）で済み、採算部数は二二ライセンス、ＰＤＦ化費用は一四カ月で回収できた。

第３期は二〇一〇年一〇月の発売をめざして、二九三タイトルのＰＤＦ化を開始した（まだ費用は回収できていない）。それと並行して、電子書籍の印税支払いシステムの構築を進めた。紙の本と異なる点は、電子書籍には定価が存在しないため、紙の本のように「定価の一〇％」といった印税計算ができないことである。そこで、電子書籍に関しては「収入の一〇％」とした。システム構築のための費用については後述する。

電子書籍化する際に考えなければならないことのひとつに、電子書籍の「商品性」の問題がある。売れなくてもかまわないのなら話は簡単だが、ビジネスである以上、収益を上げなければならない。そこで、紙の本の売れ行きを参考にした。理工系書籍の場合、古い本は役に立たないことが多いので、発行年は一九六九年以降に絞り、紙の本でも売れなかったものは除外した。その他、改訂版の旧版や翻訳書、文部省検定・著作教科書なども除外した。

電子書籍を販売する場合は、単発で売るよりも、必要に応じて新たにグループ分けしたほうが、図書館は購入しやすいようだ。講座・シリーズはそのままにしたが、それ以外の本は新たにグループ分けした。おもなものをあげると以下のようである（紙の本よりもグループの数は少ない）。

――電気、電子、無線・通信、機械・ロボット、自動車工学、環境・工学基礎、電子工作・マイコン、試験問題・解説、数学・物理・宇宙、生物・化学、未来技術、経営工学・品質管理、社会情報学・数理経済学、大学教育・ｅラーニング、情報リテラシー、コンピュータ言語・プログラミング、健康・看護介護・人間工学、出版・図書館。

これまでの取り組みを総合する。合計五二三点の電子書籍をつくるのに、電子書籍の対象著作権者は七四八人、連絡先不明が四七人、連絡はついたと思われるが回答なしが一四二人。回答のあった五五九人の著作権者のうち、許諾を断わってきた人は一人（電子書籍二タイトルに関与）であった。また、費用としては、ＰＤＦ化に二四五〇万円、印税支払いシステムの構築に一七〇万円（今後の維持に年間五〇万円）、労働力はざっと一八〇日人であった。回収額は二〇一一年八月末で一八三〇万円である。

京都大学学術出版会の取り組み

電子書籍に関して三つの取り組みを進めている。①京都大学附属図書館（学術情報リポジトリ）と連携した既刊書の電子化、②デジタルメディアらしい技術を導入した新刊電子書籍の製作、③電子ジャーナルの開発、である。

二〇一一年五月にiPadアプリ『わくわく理学』を刊行した。理学部の五つの専攻の教員三人ずつの研究を取り上げ

た取材記事のほかに動画約三〇点を盛り込んだもので、最高時はアップストア電子書籍部門で五位に輝いた。

開発や販売を通じて、多くの示唆を得た。質の高い動画や映像をつくるにはプロの製作会社に依頼しなければならないこと、iPad以外の電子端末にも対応させるには労力も費用もかかること、今回は学部が製作費を負担したが九〇〇円という価格では十分な収益が見込めないこと、多くのアプリに埋もれた状況下でどうやって利用者（読者）に存在を知らしめるべきか、など。

しかし、携帯性のあるタブレット型電子端末の可能性には期待している。

東京大学出版会と慶應義塾大学図書館の取り組み

実証実験として、慶大の学生五〇余人にiPadを貸与し、電子書籍一二〇点（無料）の利用に際してのアンケートなどを実施し、おおむね満足との感触を得ている（結果の詳細は『大学出版』八六号、島田の稿を参照）。

まとめに代えて

アンケート結果や各出版部のこれまでの経験から、電子出版に取り組むにあたって考えるべき方向性や課題、電子出版に期待される社会的役割などがいくつか見えてきた。それらを列挙することで、まとめに代えたい。

電子出版の方向性

（1）現在、日本ではPDFファイルを閲覧させるスタイルの電子書籍が主流だが、紙の本のスキャンそのままでは見劣りがする。せめて、リンクを張ったり、動画を組み込んだり、何か新しい機能を付加すべきである。

（2）紙の本ではできなかったこと、できるけれど手間や時間がかかっていたことこそ、電子書籍で実現すべきである。具体的にいえば、カラー写真集、頻繁にデータを更新しなければならないもの、動的なルート検索やプログラム実行などが可能なものなどである。検索性や速報性を重視する学術専門雑誌は、いずれ電子ジャーナルに一本化され

約九五〇〇項目を詳細・正確に解説した総合歴史大辞典
明治時代史大辞典
全4巻
宮地正人 佐藤能丸 櫻井良樹 編
第1巻特価27300円《特価期限12年3月末日》
定価29400円『内容案内』送呈
第1巻（あ～こ）（第1回・好評発売中）

現代日本政治史 全5巻 刊行開始！
❷独立完成への苦闘
池田慎太郎著 1952-1960
吉田茂・鳩山一郎らの苦闘を追う。（第1回）1890円

日本近世の歴史 全6巻
❷ 将軍権力の確立
杣田善雄著 幕府の基本構造が創られた家光から家綱の時代。（第2回）2940円

日記に読む近代日本 全5巻
❺アジアと日本
武内房司編 アジアと日本のはざまで躍動する人々に迫る！（第2回）3045円

日記を兼ねた歴史小百科
歴史手帳
2012年版 900円

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格5％税込
各種『内容案内』送呈

ていくだろう。

（3）文字情報に映像や音声を組み合わせた「リッチコンテンツ」も考えられるが、先行するナビゲーションソフトやゲームソフト、オーディオブック（朗読）などとの差別化に気をつけるべきである。そうしないと、同じようなものになってしまう可能性がある。

（4）iPad/iPhoneアプリなど新しいスタイルの電子書籍が少しずつ登場してきているが、紙の本を離れてまったく新しいスタイルの電子書籍を模索していく必要はあるだろう。ただ、プラットフォームが乱立する現状では、それにあわせてコンテンツをたくさん準備することは出版部にとって苦痛である。

電子出版の課題

（1）電子書籍は、紙の書籍の「後継」と位置づけられることが多いが、似たところもあれば、まったく異なっているところもある。技術、制度、契約、価格、編集・営業体制、ビジネスモデル、ステークホルダーとのつきあい方など、新たに考えなければならない課題は多い。

（2）電子出版では、若い世代に向けて視覚的に訴える工夫や直感的な理解のさせ方など、紙の本とはちがった読ませ方、つくり方がぜひとも必要である。とくに紙の本しかつくってこなかった編集者や印刷会社にとって、映像や音声を組み合わせるための知識や経験は皆無なので、そのためのスキルやツールが必要となる。場合によっては新たな製作会社に丸投げという事態も生じるだろう。

（3）企画立案や編集作業に要する労力や手間や経費は、紙の本でも電子の本でも同じように必要であることを再認識しなければいけない。ここに比重を置くことで、電子書籍に不足しがちな「信頼性」と「商品性」を確保することができる。また、電子出版は印刷費・製本費・流通費がかからないといわれているが、データ加工料・データ複製料・データ配信料などと名前を替えて、同じく費用がかかるものと考えるべきである。

（4）電子書籍では、在庫・返品・絶版の心配がないとされている。しかし、在庫がない代わりに、サーバー維持費・管理費がかかる。返品がない代わりに、本のように新刊委託・常備委託として一定数の本を定期的に書店に送り込むことができない。つまり、電子書籍は倉庫で出荷をひたすら待ち続けている在庫と何ら変わらないのである。また、絶版がない代わりに、いつまで売り続けるかといった判断を出版部にせまる。

（5）電子書籍の価格設定は電子出版を考えるうえで重要な要素だが、紙の本のように「定価」を出版部が設定できないこと、現在のiPhoneアプリなどは数百円が標準であること、無料のアプリが存在することなど難しい課題を有している。このことが、ビジネスモデルの組み立てを難しくしている。

（6）電子出版においては、著作権者との契約だけでなく、

組版や図版データの帰属などをめぐって印刷会社やトレース会社などと、また慣れない海外企業などとも契約を交わす必要が出てきた。守秘義務や罰則など耳慣れない条項にどう対処すればいいのか。

（7）ボーンデジタル（最初から電子）のコンテンツも、これから考えていかなければならない重要テーマだが、検討するための材料はほとんど存在していないのが現状である。

（8）一般的なデジタル社会における問題として、電子書籍においても、世界市場化に伴う流通や換金、デジタルデバイド（情報格差）、コンテンツの質の保証といった問題に対する解決策が求められている。

電子出版に期待される社会的役割

（1）社会的な使命として電子書籍を考える場合、紙の本が担ってきた役割の代用ができるかどうか。電子書籍は、紙の本が果たしてきたように、私たちの生活や文化を豊かにすることができるのだろうか。

（2）電子出版は社会的秩序を維持できるのだろうか。既存の法律で対処できない場合は、法律の改正や解釈の変更、新しい法律の制定などが必要になってくるかもしれない。また、世界的に流通する可能性があることから、グローバル企業の圧力で、日本やアジアといったローカルな秩序が乱されることはないのだろうか。

（3）目を出版部や出版界に向けてみると、同じコンテンツを紙と電子とで取り合わないか、電子書籍だけでやっていけるのかといった不安や心配がある。現在の「出版界」と将来の「電子出版界」は、はたして同じ構造をしているのだろうか。出版界に対しては他の業界などから、面倒な著作権処理や転載処理などに代わる簡便な処理機関や処理方法が求められている。

（4）一般的なデジタル社会における心配事として、デジタルデータの危険性を最後に指摘しておきたい。デジタルデータは便利な反面、後戻りできない事態をまねくこともある。データの漏洩などで社会的に混乱を招かないか、慎重に考える必要があるだろう。

最底辺のポートフォリオ
1日2ドルで暮らすということ
モーダック他　世界の最貧層の日々のやり繰りを丹念に調査。洗練された金融の実態を初紹介。
野上裕生監修・大川修二訳 ¥3990

親切な進化生物学者
ジョージ・プライスと利他行動の対価
ハーマン　利他行動の進化をめぐる波乱の科学史と、淘汰の方程式を導いた異端の進化学者の凄絶な探究。垂水雄二訳 ¥4410

トクヴィルで考える
松本礼二　21世紀にToquevilleは何を語りかけるか。『アメリカのデモクラシー』読解はじめ現代的意味を多面的に探る。¥3780

エコロジーの政策と政治
オニール　自然世界や将来世代と私たちの幸福。福祉と公正に根ざしたエコロジーへ。《エコロジーの思想》金谷佳一訳 ¥3990

仁科芳雄往復書簡集
［補巻］現代物理学の開拓 1925–1993
科学史学会特別賞に輝く〈全3巻〉後に発掘された、原子力開発の創生期や原爆関係の重要資料490通。江沢 洋他編 ¥16800

異文化コミュニケーション学への招待
通訳翻訳論から言語文化、多文化共生、環境学まで瞠目すべき最新成果を集成。新たな地平へ。
鳥飼・野田・平賀・小山編 ¥6300

黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出発
中島和子　アメリカの真の民主主義とは。南部に視点をおいた60–70年代アメリカの政治動向の比類ない分析。［新版］¥6510

東京文京本郷5丁目32–21 みすず書房
tel. 3814-0131 fax 3818-6435（税込）
http://www.msz.co.jp

韓国大学出版部の電子書籍事業の展望

李元（イ ウォン）（ソウル大学出版文化院）

韓国大学出版部による電子出版の現況

韓国大学出版部協会に加入している会員校六九校中、電子書籍事業を進めている学校は一四校あり、合計一三四〇点のコンテンツを提供している。売上は二〇一〇年時で約一億ウォンと、売上全体に占める割合は算出するのが難しいほど小さい。

そのうち七校の売上の合計が八五％を占めており、なかでも一～二校ほどが定期的に新刊を提供し体系的な取り組みをしているのが実状である。

学術書という、ほかとは異なる商品性を利用して電子書籍事業の草創期から参入し、それなりの収益を上げている大学もあるが、電子書籍事業が活性化できずにいる大学もある。

ソウル大学出版文化院だけを見ても、二二〇〇点あまりの作品を抱えているが電子書籍として提供されているのはわずか二〇〇点あまりであり、そのうえ、二〇〇八年以降は新刊でさえ情報を提供できていない状態である。

学術書という市場の限界、多用なチャネルを通じた供給の難しさ、出版部構成員の電子書籍に対する理解の不足、著作権問題、流通業者の姿勢など、多くの課題が大学出版部の電子書籍事業への参入と活性化の阻害要因となっている。しかし、制作業者、流通業者の観点ではなく、我々のコンテンツを求めている読者の観点からこれらを分析し、関心を引き出す方法を探し出すならば、必ずや成功へのモデルを発見できると思われる。

電子書籍サービスの売上の特性上、ベストセラーコンテンツを三、四か月に一点ずつ提供する出版社より、ベストセラーでなくとも二、三週に一点ずつでも継続的に提供する出版杜の方が売上が順調に伸びているという分析結果を

考えると、大学出版部の電子書籍事業への参入を肯定的に見ることができる。

大学出版部の電子書籍事業に対する提案

新たな電子書籍事業戦略の樹立

最も重要なことは、今後の市場はこれまでよりもコンテンツ自体に焦点を合わせて本を購読させるものになるという点である。出版に対する敷居が低くなると、現在より量的には増大することが予想されており、タブレット端末のようなデバイス環境のもとでは、デザインや造版など、コンテンツの外的な部分はやむを得ず平準化されることが予想される。したがって、電子書籍化が進んだ後の市場はコンテンツそのもので優位を占めることが重要になると思われる。大学出版部の立場からコンテンツ戦略を捉えるならば、どの出版社よりも競争力を持った集団であると言うことができる。学校内のさまざまな講義資料、研究実績、論文などが、まさにいま、執筆されているからである。ここに重点を置いて電子書籍事業に対する戦略を樹立しなければならない。

（1）ロングテール・マーケティング市場への志向

国内で出版された本のうち一〇点中四点、一〇年が経過した図書の八〇％、六か月が経過した図書についても四％が品切であるという統計から分かるように、主に学術書を出版する大学出版部は、損益の観点から販売部数が年一〇〇部未満の図書は品切にさせるほかなく、一〇〇部以上販売される図書といえども増刷については常に頭を悩ませている。品切は、著者からの信頼確保の面からもリスクを招き、多品種少量販売のロングテール・マーケティング市場では顧客管理上致命的なリスクとなる。これにより図書の不法複製・複写が蔓延することはもちろん、何より多くの費用を投入して出版したコンテンツの販売機会損失は莫大なものにならざるを得ない。

また、図書全体と学術書を比較してみると、学術書は売上発生点数（五一・五％＞三二・九％）は図書全体より高

新刊案内

現代に生きる内村鑑三——人間と自然の適正な関係を求めて
三浦永光＝著　生誕一五〇周年の今年、その言葉から激動の現代日本社会を振りかえる。　四六二〇円

脱原発・再生文化論——類似の法則21
川元祥一＝著　3・11以後のわれわれを問い、日本及び日本人のグランドデザインを提言。　二七三〇円

概論　ルソーの政治思想——自然と歴史の対立およびその止揚
土橋　貴＝著　「類まれな弁証法的精神の持ち主」ルソーの政治思想の特質を探る。　一八九〇円

開発主義の構造と心性——戦後日本がダムでみた夢と現実
町村敬志＝著　佐久間ダム建設と映画「佐久間ダム」の「開発イメージ」から戦後の共通体験としての開発主義を展望。　七七七〇円

御茶の水書房
〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

いが、年間販売部数（三一・三部八八・六部）は非常に低い。このような売上の低迷を防ぎ、さまざまなリスクを防止するために、専門書および教材類、絶えず注文の入る品切書を優先して電子書籍として制作・流通させることが望ましいと思われる。ソウル大学出版文化院で現在提供している二〇〇点あまりの電子書籍中、半分以上は品切図書である。

（2）大学教材の電子書籍開発

最近では出版社が直接制作できる手法が開発され、モバイルアプリケーション開発の障壁が少しずつ低くなり、大学出版部でも電子書籍を自ら制作できる時代が到来した。

まず、新入生が必修で受講しなければならない教材を選び、これを電子書籍として制作し提供することを提案したい。開発が実行されたときには制作費が減少することはもちろんのこと、毎年教材を配布しなければならない手間が減り、また必修科目の教材購入率が高まって大学出版部の売上にも相当な寄与をすることが期待される。また、隠れて行われる教材の不法複製・複写、学生の間で慣行として行われる教科書の〝引き継ぎ〟なども根絶され、著作権保護にも寄与することが予想される。制作可能な科目としては韓国語、韓国史、英語、数学などが該当するであろう。また、教養、専攻科目まで拡大することも可能であると思われる。

モバイルアプリケーションの開発の場合、業者が乱立し高額で開発を請け負う事例があるが、大学出版部の場合、学内の構成員（学部スタッフ、大学院生）を活用し制作すれば、費用削減の効果もあるだろう。学校別の実状に合わせて、中間業者や図書館を経由せず直接提供できれば、損益構造の改善にさらに貢献するだろう。

これとは別に、今後は教材図書以外にも、独自ブランドを通じて開発された教養書・実用書などの制作を、流通業者に任せるのではなく、独自の制作システムを備えて流通させることが望ましいように思われる。その理由は、アップル社が七月からApp Storeにある電子書籍や音源・ゲームなどデジタルコンテンツに対し、アップル社の内部決済モジュールを必ず使用しなければならないという指針を打ち出し、これを通じて三〇％の手数料（税金含む）をアプリケーション開発者から徴収し始めたからである。電子書籍の流通を代行する業者の立場からは、電子書籍の収益構造上三〇％の手数料では流通が不可能であるという。したがってこれを契機に、直接制作をしてみることも好ましいように思われる。一部出版社では制作システムを通じて直接制作した結果、若干のエラーや使用可能な書体が限られていることなどが明らかになったが、憂慮するほどの水準ではないという。

（3）コンテンツ付加価値の増大

現在、個々単品ごとに提供されているコンテンツを、利用者のアクセスを高めるという観点から分野またはカテゴ

リー別に共通分母を探し出し、パッケージ化する電子書籍サービスを進めている。

例えばソウル大学出版文化院では韓国学というコンテンツのなかで『韓国現代文学大事典』『民族語大辞典』などの辞典類を提供しているが、販売価格は紙書籍の定価より高く設定している。これは、電子書籍市場への参入をためらっている出版社の多くが理由とする「お金にならない」という認識を覆させ、収益構造を改善できる事例になるのではないかと考えるからである。

（4）学校別に特色を持たせたコンテンツの再提供

韓国語をはじめとする語学教材など優位性と競争力を持ったコンテンツは、電子書籍化と共に講義内容をｅ－ラーニングとして開発し、サービスすることも検討に値する。生涯学習時代を迎えニーズは常に存在するため、電子書籍と共に販売すれば、大学出版部の主要収入源になり得るだろう。

長期的な課題

（1）コンテンツのジャンルの偏重

電子書籍サービスが市販性に重点を置いて行われているため、その確保と制作も市場の流れを追っている。結果的に、寿命は短いが時流を反映したジャンルの図書が集中的にデジタル化されている。その反面、我々の主力である人文、社会、自然科学書の場合は、制作上厳密さが求められ読者層が制限されるため避けられることになる。基礎的な学問資料は言わずもがなである。

アメリカの場合、すでに一九七一年にイリノイ大学から始まったプロジェクト・グーテンベルクが、著作権の消滅した作品を少しずつデジタル化する作業を進めている。この運動は、シェークスピアの作品に関連する本や論文など各種資料の相互提供から始まったが、今では古典文学作品にその範囲が拡大され、大抵の関連資料はすべて探すことができるほど膨大な分量が蓄積されている。

韓国内でもいくつかの団体が古典資料のデジタル化を進

光を聴きながら　英国照明デザイナーの舞台裏五〇年
フランシス・リード著／鈴木美希・扇田慎平 訳
照明デザイナーをはじめ、劇場経営者、教育者ステージ・マネージャー、プロダクション・マネージャー、経営者、執筆者、編集者……さまざまな立場で時代を見つめ駆け抜けてきた著者の温厚な人間性がにじむ回想録。作品ポスターなどカラー図版二七点収載。
■二九四〇円

出版文化再生　あらためて本の力を考える
西谷能英著
「未来」にて一九九七年三月号から二〇一一年一〇月号までの足かけ一五年の間、一七五回にわたって連載されたコラム「未来の窓」を、テーマ別に編集・再構成。社史『ある軌跡』六〇年版刊行とあわせた記念出版。
■三九九〇円

未來社　〒112-0002
東京都文京区小石川3-7-2
tel 03-3814-5521
http://www.miraisha.co.jp/
★出版図書目録無料進呈いたします★
※価格は税込

めており、政府も国策事業として資料のデジタル化に多くの投資を行っているが、目に見える成果は出ていない。大学出版部のコンテンツは商業サービスには弱いのかもしれないが、加工されていない原典コンテンツを確保しているという点で明らかに価値がある。

したがってこのようなコンテンツの優位性をもとに、即時的な事業性にもとづく短期的な成果主義で取り組むのではなく、長期的な視点を持ち、特定の形式や機器にとらわれない原典テキストとしての価値を生かし、ジャンル偏重という短所を克服する必要がある。

（2）技術的問題

よく整理された原稿と変換・編集ツールを用いて電子書籍を制作したとしても、依然として問題は残っている。単純に、小説などの文学作品以外に、複雑な図表や数式が含まれた専門書、表現が緻密な符号や昔の文字、漢字が含まれた図書の場合は、どのように制作するのかという問題である。

複雑な表や図形、記号を用いた人文・社会・自然科学書は制作に多くの労力と時間を必要とする。また、複数のデジタルメディアでこれが正しく表示されるかを検証しなければならないが、コストを考慮すると現実には不可能である。複雑な表が小さな液晶で正しく表示されるか、読者が持っている電子書籍端末で図形と数式が見えるかどうかなどは、未知数である。

紙書籍の企画者らの判断によってさまざまな判型と構成で制作された図書を、大きさが制限された電子書籍端末のなかに効果的に盛り込むことは、学術書と専門教材を出版する大学出版部の課題である。

最近急に沸き起こった電子書籍ブームのはるか以前から、このような課題に対して疑問が提起されてきた。しかし、実際に統一的な解決策が適用された事例はなく、ただ制作者の能力に応じてさまざまな結果が引き出されてきただけである。

このような現実的な問題に対して解が導き出されなければ、電子書籍は単純な構造のテキストからなる文学作品に偏って制作・提供されるだろうし、紙書籍の多くの箇所は電子書籍が取り組めない部分として残ってしまうだろう。

（3）信頼できるセキュリティシステム

デジタル文書には原本と複写本の概念がない。すべてが原本である。これへの対策として透かしを文書に挿入したり、利用者のコンピュータ情報を読み取ってロックしたりするなどさまざまなセキュリティシステムを用意しているが、利用者は先ずロックをかけるという事実に拒否感を示す。利用者のなかには、セキュリティシステムを解除することに興味を示すハッキング行為や、防衛策として大きすぎるファイルのダウンロードを要求し、よく分からない過程を経る現在の認証システムに対して拒否感を抱く人がいるが、それが電子書籍販売における障害となっている可能

性を考慮しなければならない。堅牢なセキュリティシステムを構築しつつ、利用者のアクセスを阻害する部分がないかどうかも一緒に考えなければならない。

他分野の図書と同様、学術的価値のある成果物がおろそかなセキュリティシステムによりインターネット空間に無料で流出することのないよう、納得できる水準のセキュリティシステムの開発が急がれる。

（4）適切な価格

電子書籍の価格は一般的に紙書籍の半分程度であると伝えられている。その理由として多くの人が制作過程の単純化と作業経費の削減を挙げる。

しかし実際には、インターネット上でサービスを行うためには適切な数の図書を提供しなければならない。出版社であると同時に書店としても商品が提供されるため、適正な規模を維持することが必要とされるからである。利益の出ない図書といえども一定部数は制作しなければならず、サーバ運営とセキュリティ認証、ホームページ制作、ソリューション開発費など、一般の出版過程では必要なかった多くの部分で金銭的な負担をしなければならない。制作費が安いということは、このようなすべての条件を満足させるために投資した金額を除いて初めて言えることである。そのうえ、まだ確信できない読者の需要を予測した投資ですらある。

このような状況にもかかわらず、インターネット利用者はすでに無料コンテンツに慣れている。テレビコマーシャルでも「タダ」に関する話をよく見かける。電子書籍に優れた要素がなく、ただ加工したコンテンツに留まるならば、有料化に対する読者の反応は意外と冷淡かもしれない。これに対する突破口として低廉な価格で売り出す戦略に乗り出すならば、サービス業者間の競争によって結局は何も残らないサービスになってしまう可能性が高い。

電子書籍の価格に対し、大学出版部ではいまのところ紙書籍の定価と同一に設定する方針を採用している。電子書籍の活性化、読者の手に取りやすさという側面からは望ま

有斐閣 出版案内
〈価格は税込〉
東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

現代法理学
A5判
田中成明著 4620円
法の根本問題を説き起こす。法哲学分野の体系書決定版。

冷戦
アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い
佐々木卓也著
〔有斐閣Insight〕1575円
史料公開・研究が急速に進む今，冷戦の本質を明らかにする。

地方政府の民主主義
財政資源の制約と地方政府の政策選択
A5判
砂原庸介著 3990円
90年代以降の財政危機の時代に，地方政治はどう変化したか。

日本の情報通信産業史
2つの世界から1つの世界へ
A5判
武田晴人編 2835円
コンピュータが普及し，情報と通信が融合する過程を描く。

はじめて学ぶ宗教
自分で考えたい人のために
岡田典夫・小澤 浩・櫻井義秀・島薗 進・中村圭志著
四六判
1995円
宗教についての一定の知識や判断力・理解力を得るために。

◉図書目録送呈◉

しくないように見えるが、低価格路線だけが読者に提供される唯一のサービスにはなり得ないという点と、漫画や任侠小説の類と学術書は内容が明らかに異なるように、価格にもまた明らかな差がなければならないという観点から取り組まなければならないと思われる。

学術書や専門書を利用する読者の大部分は、論文や報告書作成、研究を進めるにあたって、一部または部分引用のために図書を購入することが多い。そのため、ページ別、段落別の一部抜粋、または部分販売ができるようニーズに応じた価格を適用すれば――システム開発が先決であるが、――価格に対する抵抗感も解消するように思われる。

結び――電子書籍を新たな機会に

電子書籍の登場は、どのようなかたちであれ出版市場に大きな変化を呼ぶであろう。特に既存の紙書籍市場を牽引してきた出版社、流通業者、印刷所、インターネット書店のすべてが電子書籍登場以降の状況を不安な思いで見守りつつ、各自、対応策を練っていると聞いている。

変化の時期にあることは大学出版部も同じである。

出版業は長期間にわたって不況である。ベストセラーおよび大型商業出版社に偏って販売・陳列するばかりのオンライン／リアル書店、図書定価制を逆手に取った過度の割引競争など、不利な条件はひとつふたつどころではない。このため、我々はこのような変化の時期においても機会を掴まなければならない。

繰り返すが、困難な環境下でも我々が電子書籍サービスに成功できるとした理由は、豊富なコンテンツを持っており、これが良質なコンテンツだからである。

提供するコンテンツを豊富に確保することは事業の土台であり、これが希少性を持っていればその価値はさらに大きくなる。コンテンツは顧客を集める手段であり、顧客に提供するサービスの核心だからである。大学出版部で電子書籍事業を進める方針が確認されたからには、いまは、客観的な根拠のある市場調査、優位性のあるコンテンツ、長期的なマスタープランの樹立によって、電子書籍の黄金期に最大の恩恵を受ける団体としてますます発展することを望んでいる。

＊ 本稿は『第一四回韓国・日本・中国大学出版部協会セミナー・講演録』に掲載された李元「国の電子書籍市場の現況および大学出版部の電子書籍事業の展望」の一部を抜粋し、訳文に若干加筆修正を加えたものである。

■特集・大学出版の新たな展開——電子化と国際化

国境を越える学術出版——英文共同出版の一〇年

斎藤　至（京都大学学術出版会）

大学出版部と国際交流

大学出版部が担う国際交流事業のひとつに、欧・米わけても英語圏との協働がある。今日、学問の世界で事実上の優位を占めるのは英語であり、英語で研究成果を発表せずして国際的評価を得ることは難しい。大学出版部はその成果公開の窓口としての使命を果たさねばならない。

日本の大学出版部は、英文での成果公開に取り組む意思があるのか——かくも厳しい問いかけのもと、京都大学学術出版会（以下、小会）は二〇〇一年から本事業に取り組んできた。英語圏での市場認知度が皆無に近く、かつ協働するセクターさえ満足に見つからないなか、非英語圏（英語圏からすれば「周辺」）である日本からの出発は課題だらけであったときく（経緯は本誌第五六号に掲載された鈴木の稿を参照）。幸い、発足間もない頃に杉本良夫氏を代表とする豪 Trans Pacific Press（TPP）、また二〇〇六年からはシンガポール国立大学出版部（NUS Press）という強力なパートナーを得、現在まで地域研究を軸に年間数点の英文書をコンスタントに刊行してきた。

しかし、日本で英文書を制作から普及まで一括して引き受ける出版部が限られるなか、ここ数年は企画の多様化と刊行点数の激増が進み、一種の臨界点を迎えた印象もある。また選書方針や制作に論点が集中し、普及・販売を含めて包括的に検討する機会がなかった。以下では筆者の諸外国踏査にもとづき、第一四回三カ国セミナーの成果を絡めつつ小会の事業を回顧し、国境を越える学術出版の課題と展望を探りたい。

一〇年の実績を振り返って

最大の成果は、叢書の継続的な刊行である。地域研究の

分野では、ＴＰＰとの共同でKyoto Area Studies on Asia（社会学・人類学を中心とした諸学）、二〇〇八年からはNUS Pressとの共同でKyoto CSEAS Series on Asian Studies（政治学・経済学を中心とした社会科学）を刊行してきた。いずれも東南アジア研究所の出版委員会によるダブルブラインドの審査体制によって内容水準を保持している。

また、科学研究費出版助成（成果公開促進費）の枠を活用し、学界で高い評価を得た和書の翻訳企画にも取り組んだ。東アジアの刑罰制度史、理工系コースワークの教科書（農業工学／原子炉物理学）などがある。更に画期的な国際共同研究に基づく論集（京都乳癌コンセンサス会議／港市の国際比較／安定同位体など）の編集制作を担った。

最後に、書籍出版からすればやや副次的だが、研究者の成果公開支援をねらって二〇〇八年に新規事業を立ち上げ、英文雑誌二誌の制作を受託した。この実現には、ムンバイに本拠を置く英文校閲会社、カクタス・コミュニケーションズが大きく貢献している（詳細は本号所収の湯浅氏の稿を参照）。

共同出版事業の課題と新展開

現在、小会の英文既刊書は六〇点余に及び、全体の一割強を占めるが、事業の継続から具体的な課題もみえた。一方で市場でもある程度の認識ができ、企画開発の新たな可能性をみた。簡単に列挙するならば次のようになる。

円滑な査読体制の難しさ　大学出版部はそれぞれ独自に出版委員会をもつが、共同に際しての組織横断的な査読体制を確立することは、一部の企画を除いてなお困難である。特徴や評価基準の文化差から、相互の査読結果が食い違う（split）場合も生じるが、共同先にむけて企画の刊行意義を説得的に提案する工夫が求められる。

水準を保持した制作体制　組版とそれを意識した校閲の連結性は不可欠である。単なる文字配置にとどまらず、欧文独特のルールを踏まえた自然さをそなえた組版、単なる「文法的」添削を超え、専門的内容を読みやすく校閲する優れたパートナーを厳選しなければならない。

確実な普及チャネル　日本からは英文書を海外に普及するまとまったチャネルが存在しない。北米ＩＳＢＳ社とはＴＰＰの仲介により二〇〇九年から直取引を開始した。ただし共同出版では、お互いが市場を侵犯せず共存するべく販売先を地域ごとに分担（share）し、小会が日本国内販売、共同先が日本国外販売を分担する。共同先の単独出版物を日本で販売する場合は小会が代行し、日本国外で直に普及が可能なのは、小会の単独出版物に限られる。ただ残念ながら小会では単独出版の新刊が二〇一〇年四月を最後に途絶えており、目下待望されている。なお契約上は、共同先の管轄しない地域ならば直販売ができる。フランクフルトでのEurospan社、南ムンバイでのAllied Publishers社との接触は、今後の有益な取引資源である。

共同先の拡張　近年は共同先を前掲三者以外にも拡げつつあり、第六一回フランクフルトブックフェアへの参加を経て、アジアに関心を持つ多様な出版者とのネットワーキングが得られた。映画論やカルチュラル・スタディーズに強い香港大学出版社、東南アジア研究に強いデンマークのコペンハーゲン大学アジア研究所出版部（NiAS Press）、タイのシルクワーム社（Silkworm Books）等である。

次の一〇年へ——再生と協働へむけて

第一四回三カ国セミナーでは、インターネットと汎用端末の爆発的普及を背景にした電子出版が主題となった。英文書の電子化は、広大な学術情報の海へと本格的に参入することを意味する。英語での研究者人口が各地域言語のそれに比べて多いことを考えると、これは一見、普及面での諸課題を克服するかにみえるが、実際には新たな課題が山積している。一方、電子化は英語圏の出版部でさえ緒に就いたばかりであり、後発者にとっても早期参入のアドバンテージは高い。具体的な事業化の段階にないが、以下では世界的な動向を整理し、一種の青写真を描いてみたい。

本誌読者の多くには自明とも思われるが、学術情報の電子化は、一九九〇年代半ばから始まる大学図書館への英文電子ジャーナル販売によって本格化する。その先陣を切ったのは理工・医薬系（ＳＴＭ）の商業出版社であり、複数誌を抱き合わせた機関向けパッケージ販売により、それまでの購読構造を図書館経由の流れへと一変させた。

アメリカ大学出版部協会（ＡＡＵＰ）もこの渦中にあり、書籍市場の縮小と経営の危機がささやかれたが、既に一九九〇年代初めから版元やセクターを越えた協働に着手していた。その成果はレポート「持続可能な学術出版（いわゆるＡＡＵＰ報告、解題は本誌八六号の山本の稿を参照）」に詳しい。もっとも早くはジョンズ・ホプキンズ大学出版部のジャーナル部門が着手し、現在はアンドリュー・メロン財団の支援を受けて発展的に解消、四〇〇誌超を抱えるプラットフォーム、Project MUSE へと成長した。

書籍についても、多くの英語圏発プラットフォームが二〇一二年をメドに書籍の共同販売を企画し、世界の大学出版部に参加を呼びかけている。オックスフォード大学出版局は、電子ジャーナル部門での長い経験を生かしていち早くその参入を果たした。当協会の加盟校でもあるケンブリッジ大学出版局は、自社の Cambridge Books Online を拡張したサービスを企画しつつある。

これらの枠組は、ある面で英文書の電子化が単独の出版部のキャパシティを超えつつある事実を示しており、日本の英文書出版の今後を考えるうえで示唆的なものだ。但し、アメリカや英国と異なって日本では著作権が著者（図版の場合は一次作製者）に保有されており、電子化に際しては膨大な著作権許諾の手続を要する。またアメリカのメロン財団や英国の諸チャリティに代表されるとおり、日本で「虚

学」と揶揄される人文学にたいしてさえ、民間財団の財政的支援は潤沢であり、大規模な電子化を推進する一助になっている。ところが、日本ではこうしたチャリティが存在しない。日本の大学出版部にとっても、初期的な立ち上げに際し、なんらかの外部資金を欠いて取り組むのは難しい。更に、英国ではオックスブリッジの両雄が主導したのに対し、日本の場合はどの出版部が何を目指すのか、そのためには出版部やセクターを超えて協働をはかるのか否か、などの合意形成が組織的課題となる。

これらを踏まえ、仮に日本の大学出版部が英文書籍の電子化を目指す際に、満たすべき要件を考えてみる。

ひとつは、周辺的な知見がそれを必要とする読者に届けられるチャネルづくりであろう。今日「インターネット空間にない情報は存在しないも同然」だが、電子書籍が散在していたところで、それらが意味をもつ集合として認識されないかぎり読者には届かない。アメリカの大学出版部でさえ、中小規模の出版部にいたっては、既刊書のラインナップへ「地方文学・地域史」などのアイデンティティを積極的に与え、似た特色をもつ大学出版部同士を連合化して電子書籍のブランディングにつとめている。ただし英語圏の枠組にもまれるなかでアジア発出版部のアイデンティティを死守するのか、例えば小会の共同先などに呼びかけ、汎アジア的なプラットフォームを独自に構築するのか、その選択には検討を重ねる必要がある。

プラットフォーム構築とあわせ、競合する普及チャネルの選定も課題である。大学出版部もビジネスセクターである以上は収益性を考慮せねばならないからだ。既存のディストリビュータとあわせ新規のベンダー（vendor）も検討の範囲に含まれるが、英文書市場ではこれらが乱立する状況にある。本誌浦山の稿では、一般的な想定に反し、既刊書の電子化には金銭的・時間的コストが非常に高くなる事実が明らかにされた。著作権処理・外部資金獲得（の努力）・各セクターの合意・統一的フォーマットなど、事情は英文書の場合なおさら複雑になり、これらを最適に満たす普及窓口との協働が求められる。

また和書の例で明らかなように、図書館向けのパッケージ販売から得られる利益だけでは独立したビジネスとして充分ではない。また専門書でも読者の多数は個人であるといわれる。本誌李の稿では、多様な電子書籍市場で「学術書」カテゴリを前向きに開拓する必要性が露わになった。中期的には個人向け新刊書籍こそが訴求されるだろう。

ただし、決定的といえる個人向けビジネスモデルは確立していない。二〇一一年のＡＡＵＰ年次総会でも、外部資金の獲得によって費用をカバーする「著者負担モデル（author-pays model）」、従来の査読プロセスを閉鎖的とみて批判し、議論の透明性を求めてメディア・コモンズに評価を委ねる「開かれた学術モデル（open digital scholarship）」など、様々なプロトタイプが提示されるにとどまった。そもそも近代

以降の学問は、先行研究の引用（citation）や実験の追試を積み重ねて妥当性を担保し、開かれた読み方を欠いて成り立つものではない。電子化によって知識のあり方はよりネットワーク化し、研究の手法までもが変質するかも知れない。検索システムも、従来は苦手とされた連想性や偶然性を強化した技術開発が進んでいるときく。

日本の大学出版部はこれらの動向に配慮し、企画開発力という本来の強みに立ち戻るべきだろう。冊子体という「綴じた（完結した）メディア」の縦覧性と、電子体という「開かれた（可塑性ある）メディア」の横断性、お互いのよさを把握しつつも、テキスト中心の「綴じたメディア」が果たす役割を具体的に提示していく必要がある。

更に地域間の翻訳交流へ——ローカリティの意義

文学や学問の世界では「英語化がローカリティを隅に追いやるのか」という切実な危惧が拡がっている。たしかに普遍性を志向する自然科学や数理的社会科学に比べて、地域の生き生きとしたゆたかな個有性を志向する人文学や社会科学、フィールドに即して議論を組み立てる人類学において、英語化は研究の枠組自体を揺るがしかねない。作家の水村美苗は『日本語が亡びるとき』のなかで、かつて高貴な言語の名をほしいままにしたフランス語が「英語ではない言語」として劣位に置かれた今日の状況を皮肉とともに嘆いている。果ては斯論を極端にとらえ「英語帝国主義」などのものものしい言説が生まれるにいたっている。

しかし問題は、英語化のトレンドに遅れるという焦燥に駆られ、地域の個有性を充分に経由せずして英語化へと走る事態であるように感じる。英語化のトレンドはむしろ英語をハブとした新たな翻訳交流を切りひらくものだろう。中心文化から周辺文化への侵略という言辞で「否定性」を煽り立てるのではなく、ローカリティに密着したユニークな知見を積極的に発信する好機として受けとめたい。

ビジネスの世界でも、一極的なグローバル化という現状認識は既に過ぎ去り「地域を中心としたレイヤーと全地球的なレイヤーの共存の方法を探るトレンド」、いわゆるローカリゼーションを主流に据える動きが多い。また特に地域研究の分野でも、日本人が欧・米的な分析手法で対象地域を研究する著作よりも、各国人がそこから内在的に引き出した基準で各々の共通性と差異を比較しあう著作が有力な学術賞を多数受賞している。

明治期に黎明した翻訳出版文化からみれば、日本の知見を欧・米へ還元する時がそろそろ訪れているのかも知れない。三カ国セミナーでは発足当初から、日韓中各国の代表団が推薦書籍を持ち寄り、版権取引の場を継続設定し、互いの刊行物を各国語で出版するなど、地道ながら成果を挙げてきた。東アジア諸国相互の翻訳交流と、英語をハブとした欧・米との交流、双方の一体的な連動から、更なる交流が創発されるよう模索してゆきたい。

■特集・大学出版の新たな展開——電子化と国際化

世界を舞台に活躍するために——英語で学術成果を発信する

湯浅　誠（カクタス・コミュニケーションズ）

競争が激化している国際研究環境

現在の科学は他の分野と同様、かつてない規模でグローバル化が進んでいます。米国や日本は、経済発展のために研究・開発は欠かすことが出来ないと認識しており、今までに膨大な予算、人員などをつぎ込んできました。その結果他国に比べて、とりわけ目立った研究成果をあげてきました。

ところが現在欧米諸国と日本は、中国・ブラジルを中心としたBRICsから猛追されています。中国の顕著な動きはもはや誰もが知る事実でありますが、実はお隣韓国の成長も目覚ましく、韓国発の英文論文数は毎年飛躍的な伸びを記録しています。

二〇一〇年のユネスコ科学白書によると、現在世界には約七〇〇万人の研究者がおり、その三分の一以上がアジア出身者です。この数字を見てもわかるように、今後科学の中心はアジアにシフトしていくことが想定され、研究者を取り巻く環境は益々グローバル化していきます。またそれに伴い助成金やノーベル賞などの獲得競争も更に厳しくなると見込まれます。

中国は、二〇〇六年に論文発表数が英国を抜き米国に次ぐ世界第二位となりました。このままの状況が続けば、同国は二〇二〇年には米国を抜き論文発表数が世界第一位になると予測されています。英国の学術機関王立アカデミーが今年発表したレポートによると、「論文を数多く生み出す都市部門」で過去五年間に二〇位以上ランクを上げた都市は、中国の南京と上海そしてブラジルのサンパウロのわずか三都市です。

BRICsなどの底上げもあり、世界での論文発表数は毎年過去最高を更新しています。二〇一〇年には査読付きの

約二万五〇〇〇学術論文誌から一四〇万稿以上の論文が発表されたと言われています。

しかし日本においてはこの一〇年以上、多少の増減はあったものの論文発表数は横ばいで、平均すると年間七万五〇〇〇稿程度に留まっています。当然世界での論文発表数に占める割合も下がり、二〇〇〇年には九・四五％あったシェアが二〇〇九年には六・七五％にまで落ちてしまいました。同じく科学先進国である米国では、他国の伸びが顕著なため世界に占める割合は減少したものの、発表論文数は二〇〇〇年の二五万五二三八稿から二〇〇九年の三三万一四四四稿と約三〇％も伸ばしています。

また、トムソンロイター社が二〇一〇年に発行したグローバル・リサーチ・レポート日本によると、日本人研究者の論文一本当たりの被引用数が欧米諸国のそれと比べると低い数値となっています。その一つの原因は、一握りの論文のみが他の研究者から何度も引用されているという事実です。

学術センターとしての大学の役割

研究目的で設立された組織や政府系研究機関を除いて、大学が国の研究活動を行う主要機関であるのは明らかです。大学は研究者として資質ある若者を育成し、その活動を通じて大学自体の研究開発力を高めていきます。大学での研究成果は当然発表することにより世に知られていきますが、世界大学ランキングを決める大きな要素に、その大学から何本の論文が発表されたのか、またそれらの論文にはどれ程の価値があるか等があります。

先日発表されたタイムズ・ハイアー・エデュケーション世界大学ランキング二〇一一―二〇一二年版によると、日本の五大学が上位二〇〇位にランクインしています。最高は東京大学の三〇位でアジアではトップに位置しています。しかし去年の二六位から若干順位は落としております。

研究に対する評価が高い大学は、当然のことながら優秀な学生を引き付けます。また海外からも優秀な学生・教授陣が集まってきます。その結果他の大学と比べ秀でた研究成果が生み出せ、助成金も獲得し易く、益々研究に専念できる環境が生まれます。更に世界中の異なるアイディアを持つ学生・研究者と議論を重ねることにより、それまでとは全く違う発見ができます。そのため、現在では世界大学ランキングでの順位アップを図るため世界中の数多くの大学が様々な施策を行っています。

海外からの留学生を引き付けるためにキャンパスの英語化など、国際化を推進している大学もあります。日本でも「留学生三〇万人計画」のもとグローバル三〇プロジェクトが二〇〇九年から施行されましたが、事業仕分けの影響で現在は大幅縮小を余儀なくされております。弊社韓国法人にてお付き合いのある光州科学技術院は政府の主導で一九九三年に設立されましたが、韓国初の英語のみで授業を

行う科学大学として非常に大きな成功を収めています。留学生比率も韓国の平均値である五％より著しく高い一五％を維持しています。一番の魅力は学費を完全無料にしている点です。しかし在学中に相当の英文論文発表や国際会議でのプレゼンを求められるなど、卒業するまでのハードルはかなり高いようです。また海外からの研究者も積極的に採用していて、世界大学ランキングでも分野別で高順位を獲得し、近い将来総合で三〇位以内を目指しているようです。

日本でも秋田の国際教養大学、早稲田大学国際教養学部など、英語のみのカリキュラムを導入している大学もありますが、今後は人文科学だけでなく、自然科学系でもグローバル人材を生み出す仕組みを大学が考えていく必要がありそうです。

海外との共同研究の重要性

気候変動、少子高齢化社会、貧富格差、伝染病、環境問題など現代社会は世界規模で様々な共通問題を抱えています。これらの諸問題を各国が単体で解決することはほぼ不可能に近く、今では世界中の研究者が国をまたいで共同研究を行っています。この流れは近年の情報通信手段の発展も助けとなり、益々広がっていきます。

研究内容や規模、範囲も拡大しており、もはや一研究室では人的、設備的にも単体で研究を行うのが厳しくなることがしばしばあります。事実、人文科学分野を除いては、単一著者で発表を行う論文数は年々減少しております。更に王立アカデミーレポートによると、同一機関の研究者同士で共同執筆する割合も、現在は二六％以下となっております。複数の国からの研究者によって共同執筆された論文が全体の三分の一以上を占めています。このような国をまたいだ共同研究は、既成概念が通用しなくなっている現代社会での複雑な問題を解決する際に欠くことができない、斬新なアイディアを生み出すきっかけとなっているようです。

国際共同研究の必要性に着目している国家もあり、例えばドイツ政府は二〇〇八年に「Strategy for Internationalisation of Science and Research」を導入しました。同プロジェクトの目的は、世界中から様々な分野の研究者をドイツの大学に招き、長期間共同研究に従事してもらい、その成果を国際発信していくことです。

日本発の論文発表数が低迷している主な原因の一つに、日本の研究コミュニティーにおいて海外研究者との共同研究を活発に行っていない点が挙げられます。先程のトムソンロイター社レポートによると、日本人研究者と外国人研究者による共同執筆論文数は先進七カ国中最下位でした。東京大学名誉教授の新井賢一氏によると、「ここ最近は海外の大学で学位・修士を取るまたは研究活動を行うことを希望する日本人が減少している」と指摘しています。同氏

は、この背景には近年の日本での就職事情の変化などがあるのを認めた上で「日本人若手研究者が内向きになっており、これは今の世界事情と逆転していて、このままでは日本は国際研究ネットワークに更に乗り遅れてしまう」と警鐘を鳴らしています。

学術言語としての英語

学術コミュニケーションにおいて、英語が世界共通語であることに異を唱える人はいないと思います。英語で書かれた論文は世界中で検索にヒットし、当然多くの研究者の目に触れます。英語以外の言語で書かれた論文を探し出すことは、とりわけある国において特定の分野が進んでいる場合などを除き、翻訳をしたりまたは自分で理解する必要があり、金銭的にも時間的にも割にあわないことが多いようです。大半の国がこの事実を認識しており、自国の研究者の英語スキルアップを図るために研修プログラムを作成する、あるいは外部サービス費用を負担するなどの施策を行っています。

ジャーナルのインパクト・ファクターを決める際に使用されるトムソンロイター社の Web of Science やエルゼビア社の Scopus は基本的にその検索対象論文を英文論文としています。よってどれほど質の高い論文であってもそれが他言語で書かれたものである場合は、見過ごされている可能性があります。タイムズ・ハイアー・エデュケーションの世界大学ランキングも、トムソンロイター社のデータにある程度依存していますので、日本語で書かれた論文はカウントされず、そのことが原因で日本の大学ランキングが実際の大学の実力を反映していないことも想像できます。

現代科学は世界規模で研究しているので、他国の研究に影響を及ぼす結果や発見はすみやかに全世界に向けて情報発信していく必要があります。当然その発信手段は英語となります。一見日本国内でしか関係のない研究内容が、実は世界中の研究者にとって重要な情報となりえますので、日本人は積極的に世界へ情報発信していくことが大切です。

この英語での情報発信は私達日本人をずっと悩ませてきました。国際共同開発が盛んになればなるほど、研究者は常に英語でコミュニケーションをする環境に身を置くことになりますが、弊社のような語学専門会社を利用すれば、研究者はよりコミュニケーションや研究の内容に力を注いでゆくことができます。

カクタス・コミュニケーションズについて

カクタス・コミュニケーションズは二〇〇二年に設立され、オンラインでエディテージというサービスブランドを展開しています。創業以来日本人研究者を主な対象に、英文校正、翻訳、講演・国際会議のテープ起こし、組版サー

ビスなど、学術業界に向けた英語トータルサポートを行っています。現在ではインドを本拠に、日本、米国、韓国、中国にオフィスを構えてグローバル展開しています。

私達の目標は、研究者の支障となっている英語の壁を取り除くことです。非英語圏の著者が避けては通れない英文発表ですが、日々の研究業務の合間を見て英文執筆することは非常に骨の折れる作業です。私達の主要マーケットである日本人研究者が執筆する論文を、これまで一〇万稿以上校正してきており、その経験から日本人のくせや共通する間違いを熟知しています。また制作拠点を英語人材が豊富なインド本社に置き、海外拠点との連携を図ることにより、時差に影響されない廉価で迅速なサービス提供が可能です。更にジャーナルに投稿する際に気をつけなければならない投稿規程チェックも通常サービス内で対応しています。

研究者への情報提供にも力を注いでおり、弊社サイト（www.editage.jp）上で英文論文執筆に必要なアドバイスを掲載している「Editage Insights」、自身の研究内容と関わりのある論文を検索できるサービス「PuMa」も無料提供しています。顧客向けには「Editage Edge」「Editage Authors Help」といった情報誌をメールマガジンとして発信しています。また昨年からは「英語論文の書き方ワークショップ」を東京・大阪で定期開催しており、論文の書き方を体系的に学ぶことができます。今後は各大学に向けた個別開催も検討しています。

まだまだ認識が浅い英文校正サービスをより多くの研究者へ知ってもらうため、紀伊國屋書店、早稲田大学系列の早稲田総研インターナショナル、京都大学学術出版会と提携し各顧客へ向けたサービス提供をしています。とりわけ京都大学学術出版会とは、英文雑誌や書籍の制作から、京都大学研究者へ向けた校正・翻訳といった研究サポートなど、従来の大学出版部の枠組みを超えたサービスを共同で展開しています。

おわりに

日本の大学出版部も今後、学内の研究内容を中心として海外に向けて情報発信をしていくことが必要になってくると思います。採算性の低い学術書を英文で出版することの大変さは、前掲の京都大学学術出版会の論考から想像に難くないですが、それでも現在のグローバル化の流れを見ていますと避けては通れない道だと思います。将来的には海外での販路拡大のサポートも行っていきたいと考えていますが、先ずは著者の意図をくみ取った英文校正や翻訳、またグローバル企業ならではの目線から捉えた海外向けデザイン・組版などの英文制作のサポートを、各大学出版部へしっかり提供していけたらと思っています。

大学出版部ニュース

●**第二回理事会・部会・懇親会**：一二月二日、二〇一一年度第二回理事会・部会・懇親会が東海大学校友会館にて開催された。顧問・来賓・賛助会員など、夏季研修会では見かけなかった顔ぶれも揃い、八九名の参加者それぞれに久闊多罪の様子であった。第二回理事会では協会創立五〇周年記念事業の方向性が打ち出された。二〇一二年五月開催予定の定時社員総会までには五〇周年記念事業計画案も纏まる予定である。

●**大学出版部協会創立五〇周年記念事業**　大学出版部協会は二〇一三年七月に創立五〇周年を迎える。四部会・関西支部・事務局からの事業計画を纏め、常任理事会で議論を重ねた上、定時社員総会において事業承認を得ることになるが、半世紀を迎える協会の五〇周年を単なる通過点のイベントではなく、テーマ性を持った五〇周年と位置付け、協会活動と大学出版活動を次の時代へと引き継いで行く、意義のある五〇周年としたいものである。そのためには、各部会だけではなく、協会加盟校の衆知を集めたものにしたい。

北海道大学出版会

▼熊坂亮著『**スイスドイツ語―言語構造と社会的地位**』（A5判・七三五〇円）音韻論・統語論から社会言語学・言語地理学にわたる、総合的研究の成果。〈北海道大学大学院文学研究科研究叢書20〉

▼猪瀬優理著『**信仰はどのように継承されるか―創価学会にみる次世代育成**』（A5判・三九九〇円）親子間、また教団組織による育成戦略を通じた信仰継承の実態を、大規模調査に基づき解明する。

▼佐藤昌彦著、北海道大学大学文書館編『**佐藤昌介とその時代「増補・復刊」**』（四六判・二五二〇円）北大の礎を築いた人物の、子息による伝記を翻刻し、新たに発掘された関連資料や解説を加えた。

▼見附陽介著『**象徴機能と物象化―人間と社会の時代診断に向けて**』（A5判・六三〇〇円）代理母、解離性障害、全体主義言語などの場面を追いながら、物象化という根本的な時代的問いに挑む。

▼池上重康著『**明治初期日本政府蒐集舶載建築書の研究**』（B5判・七三五〇円）舶載書とりわけ米国のパターンブックが担った役割を解明。初期洋風建築の完成過程を実証的に明らかにする。

弘前大学出版会

▼『**脳卒中を知る―「アタリ」を予防するために―**』若林孝一・佐藤敬編著（A5判・一〇七頁・定価七三五円）脳のしくみを正しく理解し、脳卒中を予防するためには何が必要なのかを知る。

▼『**平均寿命をどう読む？　より平易に、より分かりやすく、より科学的に健康を語りたい（Dr.中路の健康医学講座増補改訂版）**』中路重之著（A5判・一一一頁・定価六〇〇円）平均寿命を読み解くことで、正しい健康の知識と考え方を身につける。

東北大学出版会

▼滝浦静雄著『**修羅とデクノボー　宮沢賢治とともに考える**』（A5判・三〇八頁・三一五〇円）

▼仁平政人著『**川端康成の方法　二〇世紀モダニズムと「日本」言説の構成**』（A5判・二六二頁・三一五〇円）

※第七回東北大学出版会若手研究者出版助成採択作品。

▼狩野敦著『**がんの予防**』（A5判・三五八頁・三六七五円）

▼稲場文男・清水慶昭著『**生物フォトンによる生体情報の探求**』（A5判・二六二頁・四七二五円）

▼【東北アジア学術読本1】高倉浩樹・曽我亨著『**シベリアとアフリカの遊牧民　極北と砂漠で家畜とともに暮らす**』（四六判・二二四頁・二六二五円）

▼【東北アジア学術読本2】石渡明・磯崎行雄著『**東北アジア　大地のつながり**』（四六判・一〇四頁・二一〇〇円）

※東北大学東北アジア研究センターによる公開講演会をもとにした新シリーズの創刊第一、第二作。東北アジア地域にかかわる人文社会学・理学工学の多面的な研究成果の公開を目的とする。

流通経済大学出版会

▼『**説明文のマクロ構造把握―国語教育・日本語教育への指導・応用に向けて―**』立川和美著（A5判・二六四頁・定価三一五〇円）国語教育や日本語教育の実践では、多くの指導の工夫が行われているが、両者の連携は十分とはいえず、更なる共同研究や実践の場が待たれる状況にある。そこで本研究では、執筆者の両現場での経験を生かし、双方に有益な成果を求めるという立場から分析を行う。両領域での教育現場の実態をふまえながら、指導への応用を念頭に、言語学的枠組みを用いて説明文を分析し、その特徴や文章構造を明らかにする。その際、今日までの日本語学における文章論研究に加え、欧米におけるテキスト分析の成果を参考にし、それらの手法を積極的に取り入れることで、新たな角度からの文章分析を進めていく。このように、本研究は、言語理論に基づく指導の方法論の構築を目指す新たな試みである。

聖学院大学出版会

▼窪寺俊之編著『**スピリチュアルペインに向き合う――こころの安寧を求めて**』（A5判・二三一〇円）

人間は生きることにおいて、ひとりであることから生じる精神的苦痛、社会の中で生きる社会的苦痛、またさまざまな身体的苦痛を持っている。これらは、医療において緩和することのできる苦痛である。しかし、「医療で癒せない苦痛」がある。それが、スピリチュアルな苦痛（ペイン）である。

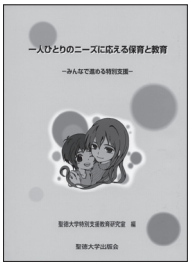
スピリチュアルペインという言葉の定義はまだ定まっていないが、「生きる意味や目的」を失うことから生じるスピリチュアルな苦痛である。

病気になったとき、身近な人を失ったとき、など人生の危機において、生きる意味が見失われる。しかしその危機において、スピリチュアルペインに向き合うことによって、より大きな意味を見出し、こころの安寧をえられるのではないか？

宗教学者のカール・ベッカー、医師の西野洋、ホスピスのチャプレンであった窪寺俊之がスピリチュアルペインの意味を語る。

聖徳大学出版会

▼特別支援教育研究室編『**一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援―**』（A5判・二〇〇頁・一六〇〇円）ハンディなサイズでありながら、特別支援に関する医学・心理学面の専門的な知識と保育・教育指導の実務に携わるのに必要な内容を網羅する。表紙のデザインやイラストには、本学の卒業生や学生を登用して、親しみやすい装丁に！



▼村井靖児著『**音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係―**』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）

▼森彪著『**医における癒し―人間関係の形成のなかから―**』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）

▼高橋大海監修・Jソロイスツ歌唱『**親子で楽しむ唱歌集**』（音楽CD・三四〇〇円）

麗澤大学出版会

▼大橋照枝著『**幸せの尺度――「サステナブル日本3・0」をめざして**』（A5判・二六二五円）幸せは、現代世代だけのものであってはならない。「3・11」が教える日本のこれからは、将来世代の幸福感・満足度を確保する「サステナブル日本3・0」へのパラダイム・シフトである。著者長年の「持続可能な社会厚生指標HSM（人間満足度尺度）の多角的研究を踏まえたサステナブル日本論。

▼福田恆存著『**福田恆存評論集**』全二〇巻・別巻一（四六判・各二九四〇円・セット価六万一七四〇円）昭和の思想界・言論界に屹立する不滅の批評集。

▼伊東俊太郎著『**伊東俊太郎著作集**』全一二巻（A5判・七一四〇円～八一九〇円・セット価九万六九六〇円）わが国における科学史および比較文明研究の第一人者の著作集。

慶應義塾大学出版会

▼慶應義塾大学商学部中国語部会編著『**大学1年生のための中国語**』（B5判・一六〇頁・二一〇〇円）日常生活で交わされる会話を通じて、中国語の発音・文法の基礎を徹底的に習得する。また、日本人が間違えやすい文法上のポイントを紹介するコラムや、通常のCD2枚分に相当するボリュームをMP3形式で収録した音声CDなど付録も充実。

▼坂本達哉著『**ヒューム　希望の懐疑主義**』（A5判・四四八頁・三九九〇円）一八世紀、資本主義確立途上の時代に、神なき世界を生きる諸個人が創る、真の社会秩序を探究したヒューム。生誕三〇〇年を期に、ヒューム研究第一人者の著者が、社会科学定礎者としてのヒュームの思想形成を精緻に描き出す画期の書。

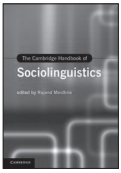
▼井庭崇編著『**社会システム理論　不透明な社会を捉える知の技法**』（四六判・三五二頁・二五二〇円）社会システム理論によって、現代社会のリアリティはどのように捉えられるのか。気鋭の社会学者・井庭崇が、宮台真司、熊坂賢次、公文俊平という当代きっての論客を迎え、徹底討論。社会システム理論の入門的好著。

ケンブリッジ大学出版局

▼The Cambridge Handbook of Sociolinguistics

(Hardback 9780521897075 USD 150.00)

社会言語学の分野の幅広い研究を反映しながら、社会の言語変異と使われ方の研究における様々なトピックとアプローチを概説しています。言語学的視点に加え、本書には、人類学、社会心理学、談話とパワーの研究、会話分析、応用社会言語学からの見識も含まれています。言語の慣習は、二十世紀後半の通信革命から新しいレベルに到達したように思われます。同時に、たとえ、伝統的な対面を本質とする社会的ネットワークやピアネットワークが、Facebookやその他の類のものと激しい競争に直面しているとしても、依然として、対面でのコミュニケーションが、言語identityを決定づける主な要因となっています。この分野の現状を踏まえた最も信頼できるガイドとして、本書は、社会言語学が、次々と明らかになる社会的存在としての我々の進化を理解するのに最適なツールであるということを教えてくれます。



産業能率大学出版部

▼『**めざせデキるビジネスパーソン　若手社員　会社・数字　学びはじめました！**』国谷真著（四六判・一五七五円）会社の知識をまとめた若手社員必読本。

▼『**改善応用講座―改善のレベルアップ・ノウハウ**』東澤文二著（A5判・一五七五円）会社の中での改善力を高めるノウハウを詰め込んだ1冊。

▼『**社会人のための法律入門**』齋藤聡著（四六判・二一〇〇円）法律の基本を幅広く解説した「法律世界への入門書」。

▼『**組織文化診断と組織開発―学習優位に向けた各社の取り組み事例**』（社）企業研究会　組織開発研究会編著（A5判・二一〇〇円）組織文化診断のフレームワークと6社の取り組み事例を紹介。

▼『**組織開発　理論と実践の基礎―5つのマネジメント課題と対策**』宮川雅明著（A5判・二一〇〇円）組織開発や組織文化診断の分析と対策を紹介。

▼『**モヤモヤした自分を解消　自己分析&心理テスト**』榎本博明著（四六判・一五七五円）『心理テスト』を使って、本当の自分を知ることができる。

専修大学出版局

▼鈴木直次・野口旭編『**変貌する現代国際経済**』（専修大学社会科学研究叢書第一四巻・A5判・四六二〇円）

二〇〇八年九月のリーマン・ショックを契機として拡大した世界経済危機は、これまでの経済政策の通念を大きく揺るがすことになった。本書ではまず問題の生じた世界経済を正常に戻すための事後対処について複眼的に考察する。

次に、二〇一〇年日本を追い抜いて世界第二位になった中国経済の限界を見つめ、投資・輸出主導型から消費・内需主導型に移行する対応策を検討していく。さらにロシアなど旧ソ連諸国の穀物生産の現状と問題点を検討し、ASEANの統合拡大に伴う域内格差（GDP、貧困問題、農村開発など）の概念について、正式な宣言や計画から掘り起こして見ていく。

アメリカについては深刻な経済危機下で展開された自動車産業救済策を考察し、新生GMの動きを検証する。また、統一後のドイツやイギリス再生論の動向、グアテマラ、アンゴラの経済についても論考を寄せている。

大正大学出版会

▼梵蔵漢対照『**維摩経**』『**智光明荘厳経**』大正大学綜合仏教研究所梵語仏典研究会編（B5判・一三六五〇円）一九九九年に発見されたサンスクリット写本をローマナイズし、チベット語訳および漢訳と対照、解説を付して刊行。

▼『**梵文維摩経**』大正大学綜合仏教研究所梵語仏典研究会編（B5判・五二五〇円）写本をできる限り尊重しつつ、明らかな誤りには、チベット訳、漢訳との比較から訂正を加え、オリジナルに近いテキストとしての再構築を試みた。以上の二書は『維摩経』研究の貴重な資料である。

▼『**古代インドの宗教とシンボリズム**』松濤誠達著（A5判・一一五五〇円）古代インドの聖典ヴェーダ、マハーバーラタ、ラーマーヤナ、各種プラーナ聖典や、初期仏教ならびにジャイナ教など古代インドの宗教文献にみられるシンボリズムについて構造論的手法を用いて考察。

▼『**グローバル時代の宗教間対話**』星川啓慈他編（四六判・二五二〇円）秩序と安定を失いながら迷走する世界の中で、宗教間の対話、協力は可能か、を問う。

玉川大学出版部

▼現代演劇協會監修『**福田恆存対談・座談集　第三巻―楽観的な、あまりに楽観的な**』（四六判・三一五〇円）加藤寛、久住忠男、林健太郎を相手に「共産党の思考パターン」について議論する表題作のほか、「日本人の喪失感をめぐって」（山崎正和）など全十九編を収録。福田恆存が昭和四十年代の文学・外交・教育を語る「対談・座談集」第三巻。

▼L・ディー・フィンク著／土持ゲーリー法一監訳『**学習経験をつくる大学授業法**』（A5判・三九九〇円）学生が能動的な学習方法を獲得できるようにするにはどのような授業をすればよいのか。意義のある学習経験をつくる統合的なコースデザインや学習目標を効果的に達成するツールや多くのアイディアを紹介する。

▼村田昇著『**道徳教育の本質と実践原理**』（A5判・二三一〇円）道徳教育の本質的なあり方を、人間生活とのかかわりから分析。学習指導要領で特に強調される宗教的情操の育成に重要な生命への畏敬の念や豊かな体験の具体的指導方法についても詳しく解説。教職科目のテキスト、学校現場の先生方に最適。

中央大学出版部

▼渡辺俊彦著『**政治権力と思想―開放の政治、はるかなフーコー**』（三三六〇円）中国とハンガリーは市場化を模索して交流した。しかし「負の連鎖の社会主義」と「盗みとられた革命」が両国の市場化の現実となった。また、フーコーの二項対立の論理を超える構造主義の思想は、本書の現実分析に対しても、複眼的視点を用意するものになっている。

▼ハロルド・J・バーマン著／宮島直機訳『**法と革命Ⅰ―欧米の法制度とキリスト教の教義**』（九二四〇円）欧米の法制度が前提にしているキリスト教の教義をわかり易く説明した良書。またカトリック教会と東方正教会の教義の違いと、その違いが法制度の違いとどう関わっているかも見事に説明している。

▼塩見英治・山崎朗編著『**人口減少下の制度改革と地域政策**』（四四一〇円）二一世紀日本の重要課題である人口減少問題を「地域」を切り口に「制度」「社会資本」「政策」などに焦点をあて多角的・系統的に分析、トピックスとなる重要な領域をカバーしており、日本の人口減少問題の構造と特質を知るうえで必読の書。

東京大学出版会

▼築島裕 編集委員会代表『**古語大鑑 全4巻**』「**第1巻 あ～お**」（B5判・九三六頁・三九九〇〇円）

最新の学術研究の成果を盛り込み、従来の語釈や語源説を全面的に再検討した比類なき古語大辞典。上代から鎌倉時代終わりまでの語に重点を置き、その期間に成立した文献に現れる語彙を収録する。

①項目の厳選、②用例、出典、語義・語源、漢語の重視、③訓点資料の活用、④日本語音韻の最新の研究成果を反映する表記の採用、⑤附録の充実、などを特徴とし、古い言葉の世界を遍く見通す。

今後の刊行予定は以下のとおり。

「**第2巻 か～さ**」二〇一三年三月
「**第3巻 し～の**」二〇一四年九月
「**第4巻 は～ん**」二〇一六年三月

東京電機大学出版局

▼樋口健治・横森求監修『**自動車工学 第2版**』（A5・二一六頁・二七三〇円）自動車技術は各種基礎工学、すなわち熱力学、流体力学、材料力学、機械力学、制御工学、システム工学、人間工学の集大成であると言えよう。多くの工学系の大学や専門学校で自動車工学の講義が行われていることがこれを裏づけている。本書は自動車そのものの教科書として、さらに機械系学科の副読本としても活用できるように配慮して編集された。

▼高橋雄造著『**静電気を科学する**』（A5・一六二頁・一九九五円）私たちは静電気を身近に体験している。この静電気による障害や事故が現代の重要な問題となっている。その理由の一つは、マイクロエレクトロニクスの拡大によりわずかな過電圧で素子や機器が壊れるようになったからである。静電気問題は一見したところ複雑だが、丹念にときほぐしていけば実は簡単な法則に支配されていることがわかる。静電気とは何か、なぜ発生するのか、どう検出・測定し、どう防ぐのか。さまざまな事例を挙げながら、静電気の謎を解き明かしていく。

東京農業大学出版会

▼『**オホーツクの大地と空・シルエットの風景 SILHOUETTE LAND SCAPES 竹下幸一写真集**』（平成二十三年十月（A四変形・一六四頁・税込価格二一〇〇円）

北海道の道東の大自然の魅力を伝えてくれる。厳選された大画面の作品に圧倒される。著者は、東京農大オホーツクキャンパスが平成元年四月開学した時から網走市山里に移住し、研究教育の傍ら、大自然を見つめてきた。作品は、空、雲、空気、風、光、霧、朝、夕、四季など、感動の世界を見つめ捉えた作品で埋められている。「竹下幸一写真集」の第2集目である。

第1集は「ALOMA COLOR 薫りたつ北の色から 竹下幸一写真集」として平成一八年に刊行されている。これまで「オホーツク・摩周湖の四季」「北の山里から」写真展を開催。「オホーツクの大地と空・シルエットの風景」写真展が東京（一〇月）・大阪（一一月）で開催される。

東京農工大学出版会

▼『**蝶の道―Butterflies―**』（A4変形判・一三六頁・三七八〇円（税込み））

昆虫写真家・海野和男による蝶の写真集。本書は、世界と日本各地で、風景とともに撮影した蝶の生態写真約一二〇点をまとめたものである。

海野和男には、十才の頃に長野県で水を飲みに路上におりていた蝶たちが一斉に飛び上がる光景を見た体験がある。その写真家は、二〇〇六年にペルーのアマゾンで、無数の蝶が飛び交う路上を歩いていた。この時、少年時代の蝶との出会いが、鮮明によみがえり、そこから本書は生まれた。写真解説は、一六頁をさいて掲載。「蝶を撮り続ける」という章には、三〇年ほど前から同じコンセプトで撮影してきた写真を十二点ほど解説とともに掲載している。蝶の本格的な写真集としては、十五年ぶりとなる渾身の書である。

法政大学出版局

▼J＝F・リオタール／合田正人監修・三浦直希訳『**言説、形象**』（七三五〇円）言説と形象の空間的厚みを比類ない知性で探求したポスト構造主義の記念碑的著作、原著刊行から四〇年後に全訳なる。

▼G・ヴァッティモ／上村忠男訳『**哲学者の使命と責任**』（二九四〇円）哲学にはなすべきことがたくさんある。イタリアの碩学ヴァッティモによる思想エッセイ。F・ダゴスティーニの解説を付す。

▼A・セゼール、F・ヴェルジェス／立花英裕・中村隆之訳『**ニグロとして生きる**』（二七三〇円）マルティニック島出身の黒人、詩人にして政治家だったセゼールが西欧植民地主義の功罪を問う。

▼新村拓著『**国民皆保険の時代**』（二九四〇円）生存権の保障となる国民皆保険体制に移行して五〇年。その意義と問題点を、一九六〇～七〇年代までの高度成長期を軸に、資料とともに検証する。

▼高橋雄造著『**ラジオの歴史**』（五〇四〇円）電子立国日本の原点に、工作の〈文化〉があった。膨大な史料の博捜とインタビュー、四五〇点を超える貴重な写真・図版とともに辿る電子工業の歴史。

武蔵野大学出版会

▼ケネス・タナカ著『**アメリカ仏教―仏教も変わる、アメリカも変わる**』（二一〇〇円）アメリカに浸透する過程で変容した仏教、仏教の影響で変化したアメリカ。アメリカから仏教を見直す。

▼舞田敏彦著『**47都道府県の青年たち―わが県の明日を担う青年のすがた**』（二三一〇円）若者の自殺率が過去最高に。危うく生きづらい青年たちの姿を統計から分析・抽出、都道府県別で比較する。

▼佐藤佳弘著『**わかる！伝わる！プレゼンカーレポート発表も採用面接も怖くない**』（一七八五円）「最後はこのセリフでしめくくれ」とセリフまで教える具体的指導で「初心者が実践できる」指南書。

▼浅川公紀著『**戦後米国の国際関係**』（三四六五円）ルーズベルトからオバマまで、第二次大戦後の十三人の大統領の外交政策を俯瞰する。

▼野田浩二著『**緑の水利権―制度派環境経済学からみた水政策改革**』（二六二五円）米・オレゴン州と英国の事例をもとに水利権制度を考える。

▼（近刊）廣瀬裕之著『**刻された書と石の記憶**』武蔵野の石碑の書と刻の研究。

武蔵野美術大学出版局

▼髙橋直裕編『**美術館のワークショップ　世田谷美術館25年間の軌跡**』（A5判・二一六頁・二三一〇円）

一九八六年に開館した世田谷美術館では、「日常と美術」をテーマに、地域に密着した果敢な活動を行ってきた。

教育普及では、子どもたちが「美術館はぼくらの遊び場だ！」と感じられるよう、ぐちゃぐちゃのどろんこ遊び、絵の具に溺れるようなお絵かき、台本から衣装・舞台装置まで子どもたちがつくりあげて上演する演劇、館内をバックヤードまで見せるオリエンテーリングなど、「面白い」を企画の中心に。オトナ向けには、身近なモノに関心を寄せ、あらたな眼差しを獲得しようと街へ……色街の建築を巡り、銭湯では富士山のペンキ絵まで体験。とんでもない企画を大まじめに考え実行する学芸員の髙橋、そこに巻き込まれるアーティストの伊藤公象、横尾忠則、太田三郎、S・アンダソン、演出家の生田萬、写真家の飯田鉄、大竹誠。本書では、代表的な8つのワークショップを髙橋とアーティスト、参加者が執筆。「日常と美術」は実現できたのか？

明星大学出版部

■既刊から

▼『**教育委員会制度変容過程の政治力学―戦後初期教育委員会制度史の研究―**』樋口修資著　A5判上製・二九八頁・三三六〇円

▼『**実業学校から見た近代日本の青年の進路**』井澤直也著　A5判上製・一七六頁・二六二五円

▼『**心の科学―基礎から学ぶ心理学―**』林洋一監修　本多明生・大原貴弘編集　A5判・三三四頁・一九九五円

▼『**五線譜の約束**』阪井・有本他著　B5判・一二〇頁・一三六五円

▼『**初等音楽科教育法　ハートフルメッセージ**』阪井恵・有本真紀著　B5判・二五六頁・一八九〇円

▼『**ここから始めよう　小学校英語―楽しい指導の第1歩―**』渡邉時夫・佐藤令子・粕谷恭子著　B5判・一六四頁・一二六〇円

■教員養成課程テキスト新刊予定

▼『**追補　生徒指導―小学校―**』味形修著

▼『**教育原理**』佐々井・樋口他著

▼『**道徳教育の指導法**』佐々井他著

関東学院大学出版会

▼星野彰男著『**アダム・スミスの経済思想―付加価値論と「見えざる手」**』（二九四〇円）『国富論』における内生的成長論としての付加価値論と価値法則論としての「見えざる手」の論理を究明し、これまでの理解の弱点を克服して、これからの経済思想のあるべき源流を探る。

▼濵田恂子著『**近・現代日本哲学思想史―明治以来、日本人は何をどのように考えて来たか**』（三九九〇円）明治以来、近代化を進めて来た日本人は精神的にはどのような歩みを示したのか？　今後の行方を模索するために、私たち日本人の思索の動向をその紆余曲折とともに開示する。

東海大学出版会

▼『**小説 遊牧民（アイハヌム2011特別号）**』イリヤス・エセンベルリン著・加藤九祚訳（A5判・並製・五一六頁・定価二九四〇円）金帳ハン国の崩壊により一五世紀後半から一六世紀後半にかけてキプチャク草原では大分裂が起きる。大草原の覇権をめぐる熾烈な争いを通して遊牧国家・カザフ独立の過程が描かれる本書は、カザフ文学の最高峰といわれた名著。「草原の三国志」ともいうべき雄渾な歴史ドラマを加藤九祚渾身の訳で贈る。

▼『**カール・フォン・リンネ**』トミー・イーセスコーグ著・上倉あゆ子訳・武藤文人解説（四六判・上製・二六〇頁・定価二三一〇円）史実に基づいて人間としてのリンネの生涯が小説で描かれる。リンネの学問的業績と使徒たちの軌跡などを解説として付す。

▼『**新聞小説の魅力（東海大学文学部叢書）**』飯塚浩一・堀啓子・辻原登・尾崎真理子・山崎むつみ著（A5判・上製・二六〇頁・定価二三一〇円）メディア研究者、文学研究者、小説家、ジャーナリストがクロスオーバー。「読物としての新聞小説の魅力」と「新聞小説の役割」。

名古屋大学出版会

▼『**チベットの仏教美術とマンダラ**』森雅秀著（一二六〇〇円）知られざる豊饒な世界を、学際的視野から包括的に捉えた画期的労作。貴重図版を多数掲載。

▼『**イメージの地層―ルネサンスの図像文化における奇跡・分身・予言―**』水野千依著（一三六五〇円）奇跡像、蠟人形、幻視……イメージの歴史人類学へ。

▼『**ヒューム 道徳・政治・文学論集［完訳版］**』田中敏弘訳（八四〇〇円）ヒューム生誕三〇〇年。文明社会の人間学を創造する主著。本邦初訳を含む完訳版。

▼『**国際政治史―世界戦争の時代から21世紀へ―**』佐々木雄太著（二九四〇円）豊富な図版・資料とともに、二〇世紀の国際政治を一望する信頼のテキスト。

▼『**大沢流 手づくり統計力学**』大沢文夫著（二五二〇円）ゲームを楽しみながら、統計力学の真髄を直感的に納得する今までになかった入門書。

▼『**水の環境学―人との関わりから考える―**』清水裕之／檜山哲哉／河村則行編（四七二五円）二面性を持つ水を、自然から技術、そして社会へと、三領域を貫いて体系的に把握する。

三重大学出版会

▼『**涼山彝族の言語と文字**』福田和展著（B5・一九〇頁・定価二一〇〇円）

中国四川省涼山彝族自治州に暮らす彝族の言語・文字を取り上げた研究書。涼山彝族は一九五六年、中国政府によって「民主改革」が実行されるまで、長い間奴隷制社会の状態に置かれていたとされる。その彝族には、漢字に匹敵するともいわれる独自の文字がある。この文字は伝統宗教の巫師である「ピモ」によって受け継がれ、祈禱や祭祀に使用された。実際の文字の形は象形文字に似ている。

一九四九年（中華人民共和国の成立）、激しい社会主義改造に見舞われた涼山彝族の伝統的な社会の有り様を紹介する。

一九四九年以降、涼山彝族が、言語文字改革の影響をどのように受け、民族の伝統文字を維持・発展させて来たのかを紹介する。

巻末には『涼山彝語会話六百句』（李民、馬明著四川民族出版社）を翻訳した。涼山彝語（彝語北部方言）の言語と文字を、その社会的、文化的背景とともに紹介する点で我が国初の研究書となる。また、現代彝語の入門書としても利用できる。

京都大学学術出版会

▼『**都城の系譜**』応地利明著（八四〇〇円）古代インドの政治論書アルタシャーストラに遡って、ヒンドゥー世界における都城の理念・形態を解明。中国とイスラーム世界に論を広げることで、アジアにおける都城の原型と、その「バロック的展開」を精密に俯瞰する。応地都城論の集大成。

▼『**適応放散の生態学**』ドルフ・シュルター著／森誠一・北野潤訳（予価三九九〇円）生物が多様になる仕組み―進化―をダーウィンに思いつかせたものはなにか？　進化生物学の第一人者が、先行研究を網羅しながら自身による豊富な研究事例を交えることにより、「適応放散」を軸として進化生態学を体系的に解説する。

▼『**変容する親密圏／公共圏**』グローバル化と「圧縮された近代」化が現代アジア社会にもたらす変化とは？　女性・労働・移民・福祉など多様な視角からその実像を明らかにするシリーズ。第1回配本は『**2　アジア女性と親密性の労働―越境する主婦・メイド・セックスワーカー**』落合恵美子・赤枝香奈子編（三七八〇円）。以下続刊『**3　絵画と私的世界の表象**』『**1　親密圏と公共圏の再編成**』他。

大阪経済法科大学出版部

▼『**未来を発信する八尾・環山楼市民塾2010**』（環山楼市民塾運営実行委員会編・一五七五円）12月刊。

今回は八尾にある史跡環山楼について紹介します。

江戸時代後期から幕末にかけて、全国に私塾が開校されます。河内周辺でも大阪の懐徳堂、泊園書院や平野の含翠堂などの私塾が相次いで開設されました。

平野の含翠堂に京都古義堂の儒学者・伊藤東涯が来遊の折り、八尾周辺の学問好きの庶民たちが東涯を八尾に迎え、八尾の豪商・石田善右衛門利清の別邸で講演を開きました。東涯の来講後、この別邸での学問の集まりが学塾になっていく。

東涯は後に再訪した際、塾の命名を請われ、山々に囲まれた眺望を望められることから環山楼と命名、ここに八尾の学塾・環山楼が誕生し、百年近く続きます。

現存する建物は一九八二年に八尾市役所の南隣にある八尾小学校の敷地西側に移設され、市内の篤志家によって創建当時の姿に復元されています。この建物はのちに市指定文化財に指定されました。

（公開　毎週水・土　十時～十六時）

大阪大学出版会

▼森岡裕一編著『**西洋文学―理解と鑑賞**』（A5判・二二〇五円）西洋文学の理解に重要な一四のキーワードを柱として、大まかな流れが理解できるよう編まれている。後半の「名作味読」では各国を代表する作品を紹介し、おもしろさへ誘う。共通教育シリーズ第二弾。

▼鳩澤歩編著『**ドイツ現代史探訪―社会・政治・経済**』（A5判・二三一〇円）かつてドイツに傾倒し、国家レベルの破滅を共有した日本。「過去の克服」、社会主義ドイツの意味、脱原発、マイノリティ・グループなど緊急の課題を報告。

▼小倉明彦著『**実況・料理生物学**』（四六判・一七八五円）コーヒーを淹れるのはカフェインの熱水抽出であり、肉を焼くのは筋タンパクミオシンの熱変性にほかならない。料理のコツを科学と歴史の小ネタで教える大阪大学の一年生向け大人気講義録。

▼石蔵文信著『**夫源病―こんなアタシに誰がした**』（四六判・一三六五円）わたしの体調不良の原因は「夫」だった！　女性の更年期障害の本質に迫り、もっと楽にやっていける夫婦関係を目指す。

関西大学出版部

▼江川直樹著『**場所の声を聞く―集まって住むカタチのデザイン―**』（A5判・一八九〇円）「場所の声を聞く」は、時間を経てさらに豊かになる集住環境のために、建築はいかにあるべきかを考える視点である。そのような視点からの研究的実践プロジェクトについて、最終的な「カタチ」が導き出された考え方やプロセス、着目点や手法などを解説する。

▼今井弘著『**古代の中国文化を探る―道教と煉丹術―**』（A5判・二一〇〇円）古代の漢民族は命の大切さに目覚め、種々の養生術を考案した。道教は、これを受け継いで不老不死の神仙（最高位の仙人）になることを理想とした。本書は、この思想に陰陽五行・易学等を取り入れた煉丹術の解説書である。

▼関西大学大阪都市遺産研究センター編『**大阪時事新報記事目録　建築と社会編　昭和Ⅰ**』（A5判・四二〇〇円）『大阪時事新報』には、様々な記事が掲載された。大正一五年から昭和五年までの建築や都市関係の記事題目を通じて、モダンな街へと急速に変化する大阪の都市景観が、社会の動きと共に浮かび上がる。

関西学院大学出版会

▼小野セレスタ摩耶著『**次世代育成支援行動計画の総合的評価―住民参加を重視した新しい評価手法の試み**』（A5上製・三七八頁・定価六〇九〇円）一自治体を事例として次世代育成支援行動計画前期計画を策定の段階から計画の実施後までを克明にリアルタイムで辿り、実施後の評価を多角的に試み、分析する。

▼大森一宏・大島久幸・木山実編著『**総合商社の歴史**』（A5並製・二四四頁・定価二一〇〇円）総合商社の歴史を、現代からその前史にまで遡って確認し、各時代における商社の活動内容の特徴を、長い歴史的スパンの中に位置づける。

▼山中俊之著『**自治体職員のための人材開発ハンドブック―キャリア開発・配置・研修の進め方**』（A5並製・一九八頁・定価一九九五円）人材開発担当者や管理職・監督職向けのハンドブックとして、人材開発において、自治体において議論になりうる論点を網羅する。好評既刊

▼山路勝彦編著『**日本の人類学―植民地主義、異文化研究、学術調査の歴史**』（A5上製・七七六頁・定価七三五〇円）

九州大学出版会

▼白土悟『**現代中国の留学政策―国家発展戦略モデルの分析―**』（A5判・一四七〇〇円）一九四九年の建国以降、激動の歴史を経てきた中国において、海外の知識や技術を導入する際に重要な役割を果たしてきた留学生たち。本書は今日に至るまでの中国の留学政策の変遷とその時代背景を克明に分析する。

▼山下達也『**植民地朝鮮の学校教員―初等教員集団と植民地支配―**』（A5判・七三五〇円）植民地朝鮮における学校教員とはどのような人々であったのか。教員集団内部の多様性と教育政策との関連性を解明し、植民地教育の「担い手」としての教員像に再検討を加える。

▼河内重雄『**日本近・現代文学における知的障害者表象―私たちは人間をいかに語り得るか―**』（A5判・六九三〇円）知的障害の概念が変化した時期の文学作品等を考察し、近代以降の日本における人間観を考える。教育・医学など文学以外の領域も含めた知的障害に関わる作品と社会的な出来事をまとめた「作品・事項一覧」（明治元年～平成二十三年）二百ページを収録。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員

【50音順】2011年12月20日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
亜細亜印刷株式会社	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7F
城島印刷株式会社	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社京都学術振興会	〒605-0009 京都府京都市東山区大橋町88-1 辻野ビル2F-A
株式会社クイックス	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社粂川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-4 ダイニックビル7F
株式会社太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11
株式会社トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 6F
株式会社平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
ベル製本株式会社	〒112-0014 東京都文京区関口1-17-5
宗教法人法界寺	〒287-0003 千葉県香取市佐原イ-1057
株式会社堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
株式会社遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧（掲載順）

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
みすず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
御茶の水書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-30-20
未來社	〒112-0002	東京都文京区小石川3-7-2
有斐閣	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町2-17

英文学術書の執筆・出版サポートはお任せ下さい！

カクタスのここが強み

アカデミックに特化した豊富な経験と実績

カクタスは、これまで全世界で2万人以上の研究者、日本においては600以上の大学様に英文校正を中心とする執筆サポートを提供してきた実績があります。

翻訳～校正～組版～印刷まで、英文出版のためのトータルサポート

原稿を頂いてから印刷物（書籍、パンフレット等）制作までの全工程をサポート。複数業者との煩雑な調整がなく、制作期間中も日々の業務に最大限注力することができます。

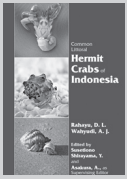
専門分野の英語エキスパートによる作業チーム

国際的なアカデミック舞台で通用する出版物の作成には、各分野の知識を持つ英語のプロによる英文校正・英文組版が不可欠です。複数の研究領域に特化した校閲・翻訳スタッフが多数在籍しています。

制作物一例

- **印刷物**
  書籍、報告書、論文集、紀要、ジャーナル、パンフレット、チラシ、記念誌
- **電子メディア**
  電子ジャーナル、ウェブサイト

実例



京都大学学術出版会様

日本物理学会様

CACTUS
日本の「国際化」を応援します

カクタス・コミュニケーションズ株式会社
〒100-0005東京都千代田区丸の内3－2－3　富士ビル7階

www.cactus.co.jp | Tel: 03-6269-9550 | Fax: 03-4496-4557
※ホームページ内お問い合わせフォーム又はお電話にてお問い合わせ下さい。

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覧

NESE
RSITY
SSES

*

.89
2.1
TER

大学出版89号（2012年冬）
2012年1月1日発行
頒価100円（〒共）

発行所：
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン萬六403号室

TEL: 03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

—

使用書体：
マティス Pro, M, DB
Monotype Garamond, Regular
使用紙：
紀州の色上質 特厚口 水

—

表紙デザイン：
白井敬尚形成事務所

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL: 0297-64-0001 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL: 03-5479-7265 FAX: 03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局
〒214-0033 川崎市多摩区東三田2-1-2
専修大学購買会別館2階
TEL: 044-911-7179 FAX: 044-911-1382

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL: 03-5394-3026 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会
〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学構内
TEL: 03-3811-8814 FAX: 03-3812-6958

東京電機大学出版局
〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

東京農工大学出版会
〒183-8509 府中市幸町3-5-8 東京農工大学内
TEL: 0423-67-6700 FAX: 0423-67-6700

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-7
法政大学一口坂校舎内
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-7164 FAX: 045-786-9898

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学図書館3階
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京大吉田南構内
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL: 072-941-8211 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172